

まちかね Vol.5 ミュージアム

発行 / 2023.3.16

発行者 / 大阪大学総合学術博物館

〒560-0043

大阪府豊中市待兼山町1-20

博物館ホームページ URL

<https://www.museum.osaka-u.ac.jp>



展示室の様子 (第1章)

創立20周年記念展

MOU 収蔵品展 - 創立からもう20年 -

大阪大学総合学術博物館では、2022年10月24日から12月17日の約2か月間の会期で、創立20周年記念展「MOU 収蔵品展 - 創立からもう20年 -」と題した展覧会を開催しました。

「地域に生き 世界に伸びる」がモットーの大阪大学に、2002年（平成14年）に創立された大阪大学総合学術博物館（The Museum of Osaka University：略称MOU）は、本学の精神的源流で大阪町人の学問所である懐徳堂と適塾や、大阪帝国大学（1931年創立）以来の教育研究の成果である学術資料の収集・保存・展示を使命とするとともに、地域社会とも密接に連携して、本学の歴史から最新の教育・研究成果までを学内外に紹介する重要拠点として活動してきました。

博物館創立から20周年を迎え節目となった昨年、これまで蓄積してきた膨大な学術資料の中から、未公開の



展示室の様子 (第3章)



展示室の様子 (第4章)



展示室の様子 (第2章)

寄贈・寄託資料を中心に公開する記念展覧会を開催しました。展覧会場を、アート作品、収蔵品の教育への活用、教員の研究資料、卒業生の資料の4つのカテゴリーに分け、総合学術博物館の多様な活動や役割について紹介しました。

今回、初公開したものに、豊中市所蔵（旧・服部天神文庫）の作品群、大阪大学吟詩部の資料があります。前者は地元自治体との連携を公開する場となり、後者は学生史保存の実例を示すこととなりました。展覧会では他に、科研の研究プロジェクトの一環として整理・研究さ

れたMOU所蔵の鉱物群を公開することができました。

加えて、MOUの教育活動を紹介しました。MOUでは2010年度より学内実習を担当しており、実際の収蔵品や複製品を用いた“模擬展覧会”の企画・開催を行ってきました。実際の展覧会開催と同じ手順で、展覧会のコンセプトづくりから展示空間のデザイン、ポスター・チラシの作成、資料・解説パネルの展示に至るまで、学生たちが主体となって展覧会を作り上げていきます。この学び中で、学芸員となって巣立ち、研究テーマを決定づけられた学生もいます。本展では、模擬展覧会において使用されてきた収蔵品や学生によって作成されたポスターを展示し、教育活動の一端を紹介しました。

展覧会、関連イベントともに新型コロナウイルス対策

が続く中での開催となりましたが、関係者各位の協力のもと、大きなトラブルなどなく無事会期を終えることができました。来場者、関係者各位に深く感謝申し上げます。

(伊藤謙)



チラシ

展覧会報告

展覧会 くるまイスでGO！ どうする★バリバリア

大阪大学大学院人文学研究科・大阪大学総合学術博物館 主催
「中之島に鮠を放つ—大学博物館と共創するアート人材育成プログラム」

〈臨床のアート〉walking practice 同じ景色をみよう

——車輪を地面に触れさせることなく、車椅子をA地点からB地点まで移動させなさい。
してください。

現代美術家の檜皮一彦が実践する“walking practice”。「歩行訓練」と題されたこの試みにおいて、参加者らは車椅子を「担ぎ」「回し」時には「吊り上げ」ながら移動すること(ワッショイ)を求められます。階段やスロープ、人の視線や入場の規制……プロセスを通じて見えてきたのは見慣れたはずの社会の、全く異なる景色でした。協力やコミュニケーションを触発し、社会に潜在的にある障壁(バリア)を可視化させるという意味で、車椅子はひとつの媒体(メディウム)だと言えます。



チラシ



展覧会風景1



展覧会風景2

本展では「中之島に鮠を放つ」の受講生たちが様々な手法で記録したアーカイブを展示しました。会場には意図的に《バラエティーに富んだ障壁(バリア)》が設けられ、来場者はその身体ごと鑑賞に臨まなくてはなりません。

本展覧会は大阪大学大学院人文学研究科と大阪大学総合学術博物館が共同し推進する



展覧会風景3

アート人材育成プログラム「中之島に鮠を放つ」の一環として開催されました。

展覧会概要

会 期：2023 年 1 月 31 日（火）～3 月 4 日（土）

開館時間：10：30～16：30（最終入館 16：00）

会 場：大阪大学総合学術博物館 3 階

主催

大阪大学大学院人文学研究科、大阪大学総合学術博物館

連携

あいおいニッセイ同和損保・フェニックスホール

大阪中之島美術館

浄るシアター

公益財団法人 吹田市文化振興事業団（メシアター）

豊中市都市活力部魅力文化創造課

兵庫県立尼崎青少年創造劇場（ピッコロシアター）

公益財団法人 箕面市メイプル文化財団

令和 4 年度文化庁「大学における文化芸術推進事業」

20 周年記念シンポジウム報告

大阪大学総合学術博物館創立 20 周年記念シンポジウム

学びと遊びをつなぐもの

－ 21 世紀における大学博物館の役割 －

創立 20 周年を迎える大阪大学総合学術博物館の記念シンポジウムを 2022 年 10 月 29 日に大阪大学会館講堂にて行いました。

西尾章治郎総長、永田靖館長から開会の挨拶をいただき、井上章一先生（国際日本文化研究センター所長）、並木誠士先生（京都工芸繊維大学特定教授、同大学美術工芸資料館長）、橋本幸士先生（京都大学大学院理学研究科 物理学・宇宙物理学専攻教授）、徳田明仁先生（愛媛大学ミュージアム准教授、同大学広報室副室長、大阪大学総合学術館招へい准教授）の 4 人の先生方からご講演をいただきました。井上先生からは「電脳化時代の博物館」というタイトルでお話をいただきましたが、コロナ禍においてオンラインシンポジウムがますます増加していることなど、これからの博物館について、パソコンが大好きではない、というご自身の視点も踏まえてスラ



パネルディスカッション

イドなしで大変わかりやすく、また面白くお話をいただきました。また、当館の横田洋助教、伊藤謙講師から、20 年間の活動を報告しました。

その後実施したご講演いただいた先生方によるパ



西尾章治郎総長

ネルディスカッションにおいて、フロアからも多くの意見をいただき、これからの博物館について多くの実りあるお話を伺うことができました。最後になりましたが、ご参加いただいたみなさまに深く感謝申し上げます。

（辻野博文）

展覧会のお知らせ

第 24 回企画展

なにわ町人学者の東洋学—石濱純太郎展

主催 大阪大学総合学術博物館、大阪大学大学院人文学研究科

協力 大阪大学附属図書館、大阪大学外国語学部

大阪大学文学部、一般財団法人懷徳堂記念会

期間 2023 年 6 月 3 日（土）～7 月 29 日（土）

会場 大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3 階 多目的室

石濱純太郎は、大阪が生んだ大正から昭和戦後期に活動した東洋学者です。没後、蔵書などが大阪外国語大学に「石濱文庫」として入り、現在は大阪大学附属図書館に保管されており整理、研究が進められています。今回の展覧会では、漢字の変遷をはじめアジアの文字・言語の多彩さや、彼をとりまく学芸ネットワークについて、展示を通じてご紹介します。

第3回兼任教員コラム

博物館は各研究科の先生方に兼任教員をして頂いています。このコーナーでは兼任教員の方の活動をご紹介します。

松野 健治（まつの けんじ）

大阪大学大学院理学研究科生物科学専攻教授 /
大阪大学総合学術博物館兼任教員

博物館は多様な役割を担っている。文化的、自然科学的資料の研究と保存管理をはじめとして、これら資料に関する、展示、出版、インターネットによる情報発信などがその代表例であろう。私が研究している生物学の分野では、博物館は、博物学の拠点としての機能を、長期にわたってはたしている。地球温暖化、環境破壊、資源乱獲の影響による種の絶滅や個体数減少により、生物に関する博物学的資料の重要性が高まっている。例えば、一世紀以上にわたって収取されてきた生物標本から、動物の地理的分布の変遷などが解明されることがある。また、最近のゲノム解析技術の進歩によって、絶滅種、絶滅危惧種の標本からゲノム DNA 配列のデータの取得が可能になった。したがって、近未来において絶滅種が急速に増えることが予測されることを考慮し、採集地など

のレファレンス付きの絶滅危惧種の標本を、DNA の取得を前提として保存する必要があるように思われる（とても寂しいことではあるが）。また、土壌や水から、それを採集した地域に、現

在、過去に生息した生物の DNA を、環境 DNA として取得、解析できるようになっている。これによって、例えば、ある洞窟遺跡にこれまで生息してきた動物（人類も含めて）を同定することが可能になった。遺跡は、調査をすれば破壊されてしまうが、土壌をレファレンス付きで保存することで、将来にわたって環境 DNA 解析の重要な資料になるかもしれない。博物館は、このようなレファレンス付き資料の保管の拠点である。ゲノム解析技術の今後の進歩を考慮すると、博物館がはたす自然科学的資料の保管管理拠点としての重要性は、今後も高まっていくと予測できる。



ホームページ新規動画紹介

より多くの方に大阪大学総合学術博物館を楽しんでいただくために「デジタル博物館」を開館しております。これまでに開催した特別展や常設展など、教員の解説付きで公開しております。是非一度ご覧ください。

新しく大阪大学総合学術博物館 常設展紹介 英語字幕版動画の公開を予定しております。

動画は下記 URL または QR コードよりアクセスください。

<https://www.museum.osaka-u.ac.jp/en/digitalcontents/>



大阪大学総合学術博物館ニュースレター
まちかねミュージアム

発行日 2023 年 3 月 16 日

編集発行 大阪大学総合学術博物館

グローバル情報委員会

〒560-0043

大阪府豊中市待兼山町 1-20

大阪大学総合学術博物館 事務室

Tel : 06-6850-6284

<https://www.museum.osaka-u.ac.jp/>

編集後記

本号の編集を担当しました講師の伊藤です。ようやく新型コロナウイルスについても、国の対応に変化がみえはじめ、本来の博物館としての活動が戻る兆しが見え始めました。コロナウイルス流行の大変な状況の中、ご来館頂いた皆様に心より感謝申し上げます。冒頭の展覧会報告でも書かせて頂きましたが、今年度、私は MOU 収藏品展を担当させて頂きました。と言いましても、私だけが展示を行ったのではなく、永田館長以下、複数の館員各位のご協力を仰ぎ、諸先生方の調査研究の一部を紹介させて頂くことができました。通常の展覧会では主担当の館員の研究成果が紹介されるのみに留まることが多いのですが、このような館を挙げての展覧会では複数の成果を分野横断的に展示・紹介することになり、困難もありましたが、予想以上に遣り甲斐のある展覧会となりました。当館は「総合学術博物館」を標榜しており多分野に広く門戸が開かれております。今後も当館の活動にご協力を賜りましたら幸いです。